コミュニティ活動助成

百年の杜プロジェクト実行委員会

群馬県藤岡市

旧酒蔵の跡地を活用した百年の杜づくり「とちの木プロジェクト」

2022年4月　延べ100人が参加したツリーデッキの柱となる杉の木の皮むき作業

2本並ぶ とちの木

本プロジェクトの樹木で、1本は立ち枯れしてしまった為、リノベーションを施しシンボルツリーとして蘇らせます。
(樹齢300年、高さ約18m)

活動エリア

元酒造所

広大な広場を用いて今までアートイベント、音楽フェスなどを開催してきたように今後も活用していきます。

事務棟

酒蔵の事務棟。現在は主にオルタナティブスクール「百の森学園」（週5日）の学び舎として活用されています。一部蔵造りになっており水場も完備しています。

（左）プロジェクトのシンボルツリーとなる2本のとちの木（写真奥）と、磨き上げられた杉の木　（中）手製の「タコ」を使ってツリーデッキの基礎を固める　（右）樹齢300年のとちの木の朽ちた部分を、木こりの協力で伐採

活動概要と活動対象範囲

280年続いた元酒蔵の跡地とその広場を「懐かしい未来の場」として“とちの木”を中心に再生し、老若男女が集う場を創造すると共に、次世代に文化や技術を伝承します。本年度活動をしていく中で、対象地の名称を「十一屋」から「**百年の杜カネザワパーク**」へと変更することに決定しました。

活動に至った理由や背景

今までも地域住民により活用されてきた280年続いた元酒蔵「十一屋」の跡地とその広場（建物約900m^2、芝生広場約4700m^2）の地主が、本プロジェクトの実行委員長です。79歳になる当人の「自分が生きている間に、この場所を地域のみんなが集う拠点にしたい！ あの“とちの木”を再生し、百年後は再び杜にしたい！」との強い希望を受け、地域住民や建築・林業・園芸の専門家、市民団体やアーティストなどが協働して、地域の老若男女が集う場所、そして有機的なコミュニティが育まれる「懐かしい未来の場」の創造を目指して活動を開始しました。

活動内容と成果

2022年4月　杉の木の皮むき会

ツリーデッキの柱となる、杉の木の皮をむきました。伐採は木こりたちが担い、皮むきから磨き上げまでは子どもから大人まで力を合わせて、つるつるの丸太に磨き上げることができました。延べ100名ほどの参加者でした。

5月　チャリティ・イベント「木をテーマに楽しむ1日」

伝統技術大工による丸太からのベンチ製作、チェーンソーマンの腕を競い合うロガーズカップ、遊びのプロによる木工広場＆あそび場を開催し、子どもから大人まで木に触れ合うことのできた1日になりました。製作したベンチは、チャリティオークションにかけました。延べ150名ほどの来場者でした。

6月　とちの木の伐採

本プロジェクトのシンボルツリーとなる樹齢300年のとちの木。その朽ちた部分を、木こりたちの技により伐採しました。伐採した木

伐採されたとちの木で遊ぶ子どもたち

（上）22年7月に開催したチャリティ・イベント。延べ300人ほどが来場した　（中左）10月、とちの実を使った絞り染めのワークショップ　（中右）10月に開催したこどもの遊び場イベント、竹を使ってジャングルジムをつくる　（下）11月、音楽イベントでは地元出身のアーティストが出演

はすぐに子どもたちの遊び場となりました。

7月　ツリーデッキ製作スタート

地鎮祭から始まり、伝統技術大工による指導の下、土固めに使うタコづくりから基礎づくりまでを実施しました。オルタナティブスクール「百の森学園」の児童たちが参加しました。

7月　チャリティ・イベント「もりをつくろうフェス！ 2022夏」

伝統技術大工によるワークショップ、遊び＆防災のプロによるあそび場＆防災キャンプ、ヨガワークショップ、音楽ライブ、動物ふれあいコーナー、こども店、地元飲食店による出店など。多くの方の協力の下、延べ300名ほどが訪れました。

9月　イベント「かんな秋のアートまつり」参加

プロジェクトのフィールドを使った、地元を代表するアーティストたちによるアートまつりに参加。百年の杜プロジェクトとして、あそび場、こども服バザーを提供しました。

10月　とちの実染めワークショップ

地元の染色家を講師に招き、オルタナティブスクール百の森学園の児童と共に、とちの実を使った染め物ワークショップを開催しました。

10月　こどもの遊び場イベント「みんなでつくろう」

プレイワーカーによる指導の下、百の森学園で米づくりのはざ掛けとしてつかった竹を再利用し、ジャングルジムをつくりました。また、6月に伐採したとちのきを利用して、とちのきテーブルをつくりました。延べ50名ほどの参加がありました。

11月　音楽イベント「音とあそぼう！」

ゲストに群馬県出身のアーティストROCOが率いるバンドや地元アーティストを招き、音楽イベントを開催。6月に伐採したとちのきを使った太鼓づくりワークショップを開催し、製作したバチをつかってバンドと共演しました。ファミリー層を中心に、延べ300名ほどが来場しました。

12月～23年1月　大地の再生実施：土壌づくり・植樹・育苗作業

ドキュメンタリー映画「杜人」出演の環境再生医・矢野智徳さんを招き、百年の杜カネザワパークの敷地全体の土壌改善作業を実施しました。県外からの参加者も多く、世代も超えた延べ150名ほどの参加者の力を合わせて作業しました。

2月　とち餅づくりワークショップ

伝統的なとち餅づくりに精通する地域住民が指導し、百の森学園の児童へと伝承。沢山の工程を経てアク抜きされたとちの実から、とち餅をつくりました。延べ100名ほどの来場者へふるまいました。

2月　ツリーデッキ製作

4月に皮をむいた杉の乾燥を待ち、伝統技術大工によるツリーデッキの柱の刻み作業を実施しました。百の森学園の子どもたちは、基礎の石に合わせて刻みを加えていく職人の作業を目の当たりにして、日々を過ごしました。

3月　ツリーデッキ製作

伝統技術大工により、全8本の柱のうち4本の柱を一寸の狂いもなく精緻に組み立て、梁を製作しました。大木を扱うため作業場所の確保が難航し、作業の遅れにつながりました。

3月　ツリーデッキお披露目＆活動報告会

実際のツリーデッキ製作現場にて、作業を担当した伝統技術大工が解説。併せて、今年度のプロジェクトの活動報告を実施しました。報告会はプロジェクトメンバーによるトークセッション形式で開催しました。

ツリーデッキの完成予想図

最後に、今まで元酒造の「十一屋」の名前で親しまれていた名称を、正式に「百年の杜カネザワパーク」へ改名したことを報告し、ロゴマークのお披露目で幕を閉じました。延べ150名ほどの来場者数となりました。

課題と解決方策

今回のツリーデッキ製作作業として使用する倉庫に、関係する多くの団体の荷物が各所に置かれていました。それにより、伝統大工による作業スペースが思ったように確保できず作業が難航、ツリーデッキ製作が当初の予定通りには進みませんでした。今後、関係者を集め作業スペースを確保するためのヒアリング及び倉庫内の片付けを実施し、ツリーデッキ製作を続行します。

また、今までこの場の利用方法について管理が曖昧だったため、円滑に場を活用できないことがありました。この問題を解消すべく、3月に関係団体代表による管理会を発足。管理方法を明確にすることで、活用を促していきます。

今後の予定

4月に関係団体への荷物の現状のヒアリング、作業スペースの片付けを調整します。5月以降、引き続きツリーデッキ製作を続行し、5月末を目途に全8本の柱を建てて、23年度中に2階までのツリーデッキ製作を完了します。

今後も定期的なイベントを開催し、この地に愛着を持ってくれる人たちを増やし、つながりを深めます。引き続き環境改善作業を実施し、土壌改善を繰り返すことで、100年後の杜へ向かって、誰もが懐かしいと思える場づくりをしていきます。

百年の杜プロジェクト実行委員会

2021年9月設立／メンバー数:71人（うち中心メンバー 15人）／代表者:金澤 正明（かねざわ・まさあき）

●〒371-1401　群馬県藤岡市鬼石108-2 百年の杜カネザワパーク内
☎080-3452-6222（橋本）　✉100nen.mori@gmail.com
www.facebook.com/100nen.mori

280年続いた元酒蔵の跡地とその広場を「誰もが懐かしいと思える未来の場」として“とちの木”を中心に再生し、老若男女が集う場を創造すると共に、次世代に文化や技術を伝承します。